

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

1 目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。中学校の英語予備調査は、31年度の中学校調査における英語調査の確実かつ円滑な実施に資することを目的とする。

2 実施日 平成30年4月17日(火)
3 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

4 調査内容

(1) 教科に関する調査

※理科は3年ごとに調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数・数学A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数・数学B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力に関わる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容 など

(2) 質問紙調査

児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 中学校の英語予備調査(文部科学省による抽出校が対象)

生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> ・教科に関する調査(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を問う問題。記述式を一定割合で導入。「話すこと」は、原則、口述式で解答する。併せて、学習意欲等に関する質問紙調査を実施。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校質問紙調査

5 調査方式

- ・平成19～21年度 全小・中学校 悉皆調査
- ・平成22～24年度 抽出調査(平成23年度は東日本大震災の影響で中止)
- ・平成25年度 「きめ細かい調査」 全小・中学校 悉皆調査
- ・平成26年度～ 全小・中学校 悉皆調査

6 調査結果

【平均正答率 %】

対象学年	教科名	小学校 第6学年			中学校 第3学年		
		武蔵野市 (都との差)	東京都 (公立)	全国(公立)	武蔵野市 (都との差)	東京都 (公立)	全国(公立)
国語	A	82 (+8)	74	70.7	81 (+4)	77	76.1
	B	65 (+8)	57	54.7	70 (+7)	63	61.2
ABの差		【17】	【17】	【16.0】	【11】	【14】	【14.9】
算数・ 数学	A	76 (+9)	67	63.5	75 (+8)	67	66.1
	B	66 (+11)	55	51.5	59 (+10)	49	46.9
ABの差		【10】	【12】	【12.0】	【16】	【18】	【19.2】
理科		71 (+9)	62	60.3	70 (+5)	65	66.1

※「都との差」及び「ABの差」については、市教育委員会で追記した数値。

7 本市の状況の概要

- すべての調査で全国及び東京都の平均正答率を上回っている。小学校「国語 A」「算数 A」、中学校「国語 A」「数学A」が、平均正答率75%を上回っており、今回出題されている学習内容を概ね理解していると考えられる。
- 主として「知識」に関する「A問題」と、主として「活用」に関する「B問題」の差を比較すると、算数・数学では、全国及び東京都と比べ「ABの差」は小さい。国語では、全国及び東京都と比べ「ABの差」は、ほぼ同様である。また、主として「知識」に関する「A問題」と主として「活用」に関する「B問題」を一体的に問う「理科」の平均正答率が、小・中学校でおよそ70%である。
- ▲国語では、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたり、複数の資料の内容を関連付けて理解したり表現したりすることや文章を読む際に目的に応じて情報を整理して内容を的確に捉えること、算数・数学では、グラフから読み取ったことに基づいて適切に判断することや数量を関連付けて根拠を明確にして記述することや数学的な表現を用いて説明すること、理科では、観察・実験の結果を整理し分析して考察した内容を記述することや自分や他者の考えを検討して改善することなどに課題がある。これらのことから、より一層、知識・技能を活用する力を伸ばすための学習活動や課題解決的な学習活動を充実していく必要がある。